

## 勝山市全小中でNIE

# 論説



題 字市橋 更彩  
(足羽高)  
カッタ・神内 八重

勝山市は本年度から、市全12の公立小中学校でNIE(教育に新聞を)活動に取り組んでいる。ユネスコスクールの持続発展教育(ESD)の関連事業との位置付けで、食品ロスの問題や地域を知る(ふるさと)教育、新型コロナウイルスの影響など多彩なテーマで新聞の活用が進んでいる。ユネスコスクールの理念は地球規模の諸問題に持続して取り組む人材の育成だ。勝山市は2014年度に全小中学校がユネスコス

クールに加盟し、環境保全と古里教育を核としたESDを進めてきた。今年2月にはESD活動支援センター(東京)が勝山市を「地域ESD活動推進拠点」に登録しており、全体で取り組むことになったNIEとの効

児童から「平泉寺のソフトクリーム」や「池ヶ原湿原のヨシストロー」など活発な意見が出た。地域学習にとどまらず村岡小では、恵方巻が大量に廃棄されている食品ロス

の問題をテーマにした授業を行っている。ただ、子どもたちが問題を考えるきっかけは身近なところにある。地域の社会の課題や取り組みを新聞などで知るNIEの実践は、子どもに興味関心を抱かせ、自ら考えようとする意欲を引き出すだろう。

勝山市の取り組みは新聞社と連携し、活動成果を広く発信することも目指している。日本新聞協会のNIEアドバイザーで荒土小の道関直哉校長は、「発信によって活動が学校にとどまらず、地域に広がり、勝山市が一体となって盛り上がる」と期待する。

## 持続発展教育の進展期待

果的な連携を期待したい。ユネスコの理念を踏まえ、各学校では古里の良さを知る活動を展開してきた。意識は児童に浸透し、例えば平泉寺小で行ったNIEの新聞づくりの出席授業では、記事の候補として

も行われた。本紙記事から廃棄を減らす店の対応を読み解き、自分たちができることを考え発表し合った。環境保全や食糧不足問題、人口減少など、全国規模や世界規模でさまざまな課題がクローズアップされ

新型コロナに関する取り組みもあった。荒土小は記事を通して医療従事者の苦勞を知り、負担を減らすために手洗いなど自分のできごとを考えた。北郷小では、コロナ対策が子どもにとって「優しい」か「優しくない」かのテーマで児童が議論。新学習指導要領の掲げる「主体的・対話的で深い学び」にもつながっていた。

ユネスコのESDとNIE活動。新聞を活用した持続発展教育によって地域の課題を見つめ直し、古里に誇りを持つ人材育成が一層進むことを期待したい。

2020.11.23